



残り 0.02 秒 「あきらめない」 気持ち

園長 福原 良子

先日、とても嬉しいご連絡をいただきました。

本園の修了生（小学3年生）が、レスリングの全国大会で優勝したとのことでした。しかも決勝戦は、ポイントで劣勢でしたが、試合終了まで残り 0.02 秒での逆転勝利だったそうです。保護者の方は、「もうダメだと思っていたんです。私だったらあきらめていました。うちの子、よくやりました！」と、お子さんの頑張りを心から誇らしく語ってくださいました。その様子からは、親としてだけでなく一人の人として、お子さんを尊敬し、その成長を喜んでいる素敵な親子関係が感じられました。

そのお子さんの幼稚園時代を思い返してみますと……

年少組の頃は幼稚園になじめず、お父さんに抱かれて登園する日もありました。

年中組では製作遊びが苦手で、なかなか取り組めないこともありました。

年長組になると、大好きな運動遊びに繰り返し取り組む一方で、ルールを守れない友達のことを受け入れられず、それでも一緒に遊びたいという思いとの間で葛藤し友達関係を豊かにしていきました。

そして小学生になった今、自分の好きなこと、得意なことにとことん打ち込み、全国大会優勝という快挙を成し遂げました。

もしも、年中組の頃「苦手な製作遊びができるようになること」を一番の目標にしていたら、今の姿はなかったかもしれません。一方で、自分の好きな運動遊びに存分に取り組み、友達関係も深めながら達成感や自己肯定感を積み重ねてきたからこそ、劣勢の状況でも最後まで諦めず、自分の力を信じて戦い抜くことができたのではないのでしょうか。このお子さんの成長の姿を通して、改めて大切なことを教えてもらいました。

少し硬い話になりますが、幼稚園から高等学校までの教育は、学習指導要領に基づいて行われています。そして現在、その見直しが進められており、令和 10 年度から順次、新しい学習指導要領に基づく教育が始まる予定です。その方向性の一つとして、「好き」を育み、「得意」を伸ばすことの大切さが示されています。まさに、今回ご紹介した修了生の姿は、そのことを体現しているように感じます。そして、このことはこれまでも江東区立幼稚園が大切にしてきた教育そのものです。

こどもたちは、一人一人異なる「好き」や「得意」をもっています。その芽を見つけ、認め、伸ばしていくことは、将来の大きな自信や挑戦する力につながります。豊洲幼稚園では、これからも一人一人のお子さんの「好き」を育み、「得意」を伸ばす教育を大切にしながら、子どもたちの成長を支えてまいります。

